



その4

活動データ 第5回

メニュー：勾玉づくり

日程：9月22日 土曜日

場所：中央公民館

参加：27人(4年生～6年生)



いつもの屋外で体を思いっきり動かす教室とは違って、手先の細かい作業が中心となった今回のメニュー。みんな黙々と作業に取り組みました。



古代の装飾品をつくらう！

第5回目となった今回の教室は、屋外にとび出すいつものメニューとは趣向を変え、縄文・古墳時代に装飾品として使われていた「勾玉」づくりに挑戦しました。

勾玉はコの字型に曲がった形と、一端にひもを通せる穴が開いているのが特徴です。古事記では曲玉と書かれています。曲がる」という言葉は悪い意味合いで使われることもあることから、今日では勾玉と表すのが一般的のようです。材質は本来、メノウやヒスイといった硬い石が使われていますが、今回の教材は加工しやすい高麗石という軟らかい石を使用しました。

器用さと根気が勝負

作業は事前に糸ノコで角を落とした状態からスタートしました。まず、目の粗いサンドペーパーを使い大まかな輪郭を削り出します。この作業が重要で最後の出来栄を左右することになるので、わりと簡単に削れるため、夢中になっているうちに削りすぎてし



まい全体的に小さくなってしまつ子もいるなど、創造力が問われます。

輪郭を出したあとはサンドペーパーの粗さを変え、全体的に丸みをつけていきます。ほとんどの子どもたちがこの作業がいちばん難しかったらしく、バランスよくきれいな丸みが出るよう丁寧に作業を進めます。ここでも削り過ぎは禁物です！

作業をしてきたテーブルの上が削り落とした粉でいっぱいになった頃、最後の仕上げ作業へと移ります。今度は耐水ペーパーを使って水に濡らしながらの水研ぎです。滑らかな曲面ときれいな艶が出るよう根気よく磨きます。

作業開始から約2時間、全員がオリジナルの勾玉を完成させました。落として欠けたり、削り過ぎるなどのハプニングもありましたが、自分の力でひとつのものを作るという経験をし、また少し大きくなった子どもたちでした。27個の勾玉は、見た目以上にピカピカでした。

今回の教室は前回に引き続き、町外へとび出し体験学習を予定しています。幌延町で地層の状態やそこに住む生物の学習と、遠別町でバルーンアートの体験です。お楽しみに！



材料は、4cm×3cm×1.5cmの直方体で、消しゴムをひと回り大きくしたくらいの高麗石。



大まかに不要な部分を糸ノコで切り落とします。この作業は先生にやってもらいました。



サンドペーパーで丸みをつけていきます。粗さを変えながら滑らかさを出していきます。



(右)サンドペーパーでひたすら削ります。細かい粉が飛び散るのでマスクは必需品です。(左)仕上げは耐水ペーパーを使い水研ぎです。表面のザラザラ感がなくなっていきます。



勾玉の原型として有力説とされている熊の牙。原始人が首飾りにしていたテレビアニメもありました。

自然教室メモ

勾玉の形

縄文時代までの勾玉は不規則な形でしたが、弥生時代になると整美となり、現在と同じようなデザインになったそうです。熊やイノシシなど動物の牙に穴を開けて形を整えたのが勾玉の原型であるとする説が強いのですが、中国道教の陰陽を表す太極図という説や、生命のはじまりである胎児の形を表す説など色々な説があります。

いづれにしても単なる装飾品としてだけでなく、神事に用いたり、神殿の柱の下に埋めてあったり、薬の中に入れてあったりなど、災いなどを取り除くお守りのように扱われていたそうです。